

## 【新潟税務署長賞】

### 「高校生から見た税」

学校法人 鎌形学園

東京学館新潟高等学校

二年 佐藤 亜純

私たち学生にとって税とはどんな存在なのかを考えたとき、正直私はよく分からなかった。大人たちがよく「税金が高い」と口にしてからマイナスのイメージもあるが、本当にそうなのだろうか。まだ未成年で収入のない私が唯一関わりのある税といえば消費税で、税の使い道で一番割合が多いものは社会保障ということを知っているが、どうしても年金のイメージが強すぎて実際どんな場面で使われているかは分からない。

しかし、「分からない」のままではいけないと思う。なぜなら私のような税について知識が少ない人たちに税金を納めるように言っても不満に感じることもの方が多いかと思うから。そういう人たちは嫌々税を払うか、最悪の場合、税を払わなくなってしまうかもしれない。そんな事が起こらないようにするためにも、今、高校生のうちに税とは何かを知ってから社会に出る必要があると思う。

最近、ニュースで目にする多くの災害。地震や台風の影響による大雨など、それらの被害を受けると街は悲惨な姿になってしまう。そんな時に復興を目指して街や道路を整備できるのは何のおかげだろうか。もちろん心優しい方たちによる募金のおかげでもあるだろうがここで使われるのが税金だ。

そして、流行が始まってから四年目になったコロナウイルス、このコロナウイルスのワクチンが無料で接種できたのも税金のおかげである。

このように、調べたり、自分たちの生活をよく振り返ってみると税金の使われ方に関しては身近なものが多かった。私たちの豊かな暮らしは私たち自身が納める税金によって支えられているということが分かれば、税を納めることがどれほど重要か実感するだろう。私はまだ払う税が少ないが、家族や地域の方、全国のたくさんの方々が納めている税でこの暮らしができていと思うと感謝しなければならぬなと心から思う。高校を卒業し、成人となり社会人として仕事に就いた時には、私も納税という義務をしっかりと果たせる大人になりたいと思う。

高校生の立場から税の存在を見ると、良いか悪いかを断言できるものではないけれど、税のおかげで助かっていることは確かなので税の種類と使い道、必要性についてもっとよく知ってもらえることができればいいと思う。